

2014
第 32 期

第2四半期
Business
Report 2014.1.1-2014.6.30

株主 通信

Inspiration for Life Science

特集

腸内フローラの
機能の解明
～腸内細菌と健康の関係～



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

世界のライフサイエンス研究を支援する専門商社

成長と信頼を さらに高める取り組みへ

私たちは、「ライフサイエンスの進歩・発展に貢献する」という経営理念のもと、ライフサイエンスの基礎研究に携わる数多くの研究者を支援してまいりました。そして、有用な商品や、確かな情報サービスを提供することなどを通じ、研究者にとってさらなる満足につながるよう常に努めております。

私たちコスモ・バイオは、ライフサイエンスの研究支援会社として、成長と信頼をさらに高める経営を推し進め、より確かな研究支援会社の実現を目指してまいります。

成長と信頼の研究支援会社の実現

中期的な
目標

- ▶ 顧客満足度の追求
- ▶ 業容の拡大
- ▶ 経営基盤の安定化

トップインタビュー

Q 当第2四半期累計期間の連結業績はいかがでしたか？

A 前年同期比で増収減益、当初予想に対しては売上・利益ともに上回ることができました。

事業環境は、活発さを欠いた市場の状況に加え、競争も激しさを増し、さらに円安傾向の為替環境が続くなど、厳しい状況で推移しました。そうした中で、当第2四半期累計期間の連結業績は、売上高が前年同期比3.3%増となる一方で、営業利益は同37.6%減、経常利益は同15.2%減、四半期純利益は同1.4%減の減益となりました。

しかし、当初予想に対しては、売上・利益ともに上回ることができました。特に、利益面では、販管費節減の取り組みが奏功し、営業利益は当初予想比19.9%増を果たすことができました。

▶ 当第2四半期累計期間の連結業績 (単位:百万円)

	前第2四半期実績(累計)	当第2四半期(累計)		前年同期比増減	当初予想比増減
		当初予想(2月14日公表)	実績		
売上高	3,557	3,600	3,674	3.3%	2.1%
営業利益	247	129	154	△ 37.6%	19.9%
経常利益	295	208	250	△ 15.2%	20.5%
四半期純利益	186	127	183	△ 1.4%	44.7%

▶ 通期の連結業績予想 (単位:百万円)

	前期実績	当期予想*	前年比
売上高	7,050	7,300	3.5%
営業利益	271	260	△ 4.1%
経常利益	444	410	△ 7.8%
当期純利益	313	265	△ 15.4%

※2014年8月7日に上方修正した数値です。

Q 通期の連結業績見通しについてはいかがですか？

A 通期の連結業績予想を上方修正したものの、依然として厳しい状況が続くものと考えております。

通期の連結業績は、当第2四半期累計期間の業績が当初予想を上回ったことを受けて、利益については当初予想を上方修正しました。しかし、前期比では増収減益という厳しい見通しであることに変わりはありません。

下期以降も、再生医療研究分野などの成長期待分野をはじめとした各研究分野における販売活動を積極的に展開するとともに、引き続き販管費節減に努め、収益改善を図ってまいります。

代表取締役社長
笠松 敏明

Q

中期的な戦略としては、どのような取り組みを行っていますか？

A

当社のあるべき姿を、お客様の目線からもう一度見直す取り組みを行っています。

当社は昨年、創立から30年、そして来年は株式上場から10年を迎えます。こうした大きな節目の時期を迎える中で、残念ながら昨年は減収減益の業績に終わりました。

この結果を真摯に受け止め、お客様からの信頼をさらに高めるために、「専門商社」としてのビジネスの根幹を再強化・再構築していこうと判断しました。当社は、お客様が求める商品・サービス・情報を、必要とする時に迅速に提供することができているのか。当社がお客様のニーズに合致しているかと信じてやってきたことは、お客様の本当の思いとずれてはいないのか。こうした再確認の入り口として、このたび、「顧客満足度アンケート調査」を研究者と代理店に対して実施しています。

このアンケートは現在解析中ですが、この結果から改善ポイントを抽出すると同時に、当社がこれまで積み重ねてきたことが間違っていないこと、これからも自信を持って続けていくべきことも全社員で再確認したいと考えております。

A

研究支援を行う「専門商社」として、お客様満足度をさらに高める取り組みを行っています。

お客様に対する日々の対応の中からも、取り組むべき重要なテーマを、次のように考えております。

① 在庫戦略&納期の改善

② 仕入先との関係強化

③ 自社製品・サービスの開発

「在庫戦略&納期の改善」については、ニーズの高い商品群を戦略的に選定して自社倉庫に在庫を持つことで、迅速な納入につなげております。今年は従来よりも在庫を数量・種類ともに増やし、その結果、それらの商品の販売実績がアップするなど、少しずつですが着実に効果も出てきております。

「仕入先との関係強化」については、品揃えの強化や納期の改善など、商社としての基本的な機能を強化する上で必要不可欠なテーマです。競争環境が厳しさを増している昨今においては、従来にも増して重点的に取り組んでいかなければならないと認識しております。

Q

「自社製品・サービスの開発」は、商社の機能を越えているようにも思われますが？

A

当社が取っている「研究支援」という立ち位置から、重要な機能の一つであると考えています。

「こんな商品・サービスがあったらいいな」といったお客様の声にさらにお応えしていくことを目指し、当社は、「商社」という旧来的概念に囚われることなく、「研究支援」という立ち位置の中で何ができるかを徹底的に追求していこうと考えました。これが、当社が「自社製品・サービスの開発」に積極

的に取り組むようになった理由です。

具体的には、自社独自の開発に加え、大学・研究機関・国内企業とのアライアンスによる研究・開発活動により、自社独自の製品・サービスの幅が着実に広がりを見せております。

Q 今後、ブランド戦略も重要になってくるということでしょうか？

A 商品だけでなく、企業としてのブランド価値を高めていきたいと考えています。

当社のビジネスの根幹はあくまでも“専門商社”です。したがって、「コスモ・バイオ」と冠した商品のブランド力を高めるだけでなく、「コスモ・バイオ」という企業に対する信頼感・安心感を高めることが大切であると考えております。

当社は、これまで以上にライフサイエンス市場におけるプレゼンスを高め企業ブランド価値を向上させていくことで、“研究者から選ばれる企業”、“仕入先から選ばれる企業”を目指してまいります。

Q 海外における展開状況はいかがでしょうか？

A 販売代理店を増やす取り組みから、現在は、**拡販活動の積極化へと移行してきています。**

昨年までは、海外展開の基礎を築くべく、海外販売代理店の数を増やすことに注力し、結果として3年間でほぼ倍増となる27社まで増加させることができました。

また、並行して、海外代理店との関係強化にも努めてきま

した。現在、これを基礎に拡販の本格化に向けた活動に注力しております。たとえば去年は、海外代理店を集めてミーティングを行い、商品を紹介し親睦を深めました。こうした活動が効果を発揮し始め、海外における販売実績が高まってきております。

Q 最後に、今後の展望をお聞かせください。

A 中期的な目標として「成長と信頼の研究支援会社の実現」を目指してまいります。

当社は、「成長と信頼の研究支援会社の実現」に向けて、「顧客満足度の追求」、「業容の拡大」、「経営基盤の安定化」という3つの目標に取り組んでおります。すべての基本は“お客様”であり、当社は常にお客様の役に立つ“研究支援”という切り口から幅広い支援活動を行うことができる専門商社であり続けたいと考えております。その結果を業容の拡大につなげ、そのための基礎として経営基盤の安定化を追求してまいります。

そうした取り組みの継続によって安定的成長と企業価値の最大化を図り、株主の皆様への持続的な安定配当、株主の皆様のご期待に応える経営へとつなげてまいります。

株主の皆様には、引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特集：腸内フローラの機能の解明 ～腸内細菌と健康の関係～

長寿社会のいま、病気を未然に防ぎ健康であり続けることに関心が集まっています。こうした社会の流れのなか、基礎研究においても健康の増進や病気の予防に関連した研究が盛んに行われています。そのひとつが、さまざまな病気に大きく関与している「腸内フローラ」の研究です。古くから言われてきた『医食同源』に対する科学的な実証、研究が、新たな可能性を広げつつあります。



私たちの腸内には、600兆個・1,000種類以上の細菌が生きているってホント？

私たちヒトの1人分の細胞数はおよそ60兆個ですが、その約10倍にあたる数の細菌が私たちの腸内に生息しています。これらの腸内細菌は、微生物発酵によって食事に含まれる栄養分や腸の分泌物を分解し、増殖することで、同時にさまざまな代謝物を産生しています。

600兆個もの細菌が、私たちの腸内で種類ごとに棲み分けて生息しているんだ。この様子から、腸内細菌群を“お花畑”に例えて「腸内フローラ」と呼んでいるんだよ。



ほんとだ！
お花畑
みたい～

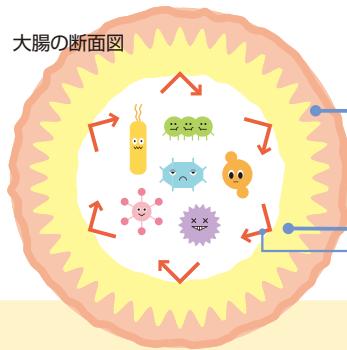


私たちのからだと腸内細菌は、どのように共生しているの？

大腸は、食事とともに摂取された外来微生物や腸内細菌にさらされ、常に感染や炎症の危険と隣り合わせになっています。しかし、腸管内部には、細菌や毒素が、からだに侵入するのを未然に防ぐ腸管バリア機能が働いています。

このバリア機能が破られると、腸の免疫系が異常をきたし炎症性腸疾患や食物アレルギーなど多種多様な疾患の発症や進展につながることになります。

② 大腸の断面図



大腸の壁

粘液層

バリア機能

- 水分と、腸内細菌の発酵によって生じた一部の栄養素を吸収。
- 粘液を分泌し、バリア機能を形成する。
- 抗菌物質などが分泌され、これが、腸内細菌や毒素の生体内への侵入を阻止。



「腸内フローラ」のバランスが乱れると、どうなるの？

腸内フローラは、生活習慣、特に食事に大きく左右されます。腸内フローラのバランスの乱れは、生活習慣病や、加齢、肥満、肌荒れ、アトピー、アレルギー、発がんなどに大きく関与していると言われています。そのなかでも危険な病気が大腸がん。食生活の欧米化に伴って増加傾向にあります。

最新の研究によって、腸の重要な働きが明らかとなりました。たとえば、抗生物質の服用によって腸内フローラのバランスに乱れが生じ、腸内で真菌(カビ)が増殖し、喘息の悪化につながるメカニズムが解明されました。また、日本人の糖尿病患者の95%を占める2型糖尿病患者には、腸内フローラのバランスに乱れが見られ、腸内細菌が血液中に移行しやすい状態にあることがわかりました。今後の研究によって、糖尿病に伴う腸内の炎症を抑えることが可能となることが期待されています。

「腸内フローラ」のバランスの乱れが、さまざまな病気を引き起こしている。「腸内フローラ」を研究することで健康を維持し、たくさんの方の病気を予防・治療する方法を発見できるってことなんだよ。



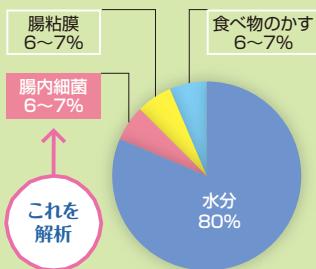
「腸内フローラ」の基礎研究にも、コスモ・バイオの受託サービスや自社製品が活躍しています。

新しい技術によって加速する研究スピード

腸内細菌の解析には従来、培養法が多く用いられてきましたが、解析には多大な労力と熟練した技術が必要で、しかも培養可能な菌種は腸内細菌のわずか20%程度でした。

近年は、これに代わって糞便中の腸内細菌のDNAを解析する分子生物学的な手法が発達し、簡便かつ再現性の高い解析が可能になりました。

ヒトの糞便中の成分構成



腸内環境改善研究シリーズ

当社では「腸内環境改善研究シリーズ」を通じて、腸内フローラの基礎研究をサポートするために、以下のような受託サービスと製品の販売を行っております。

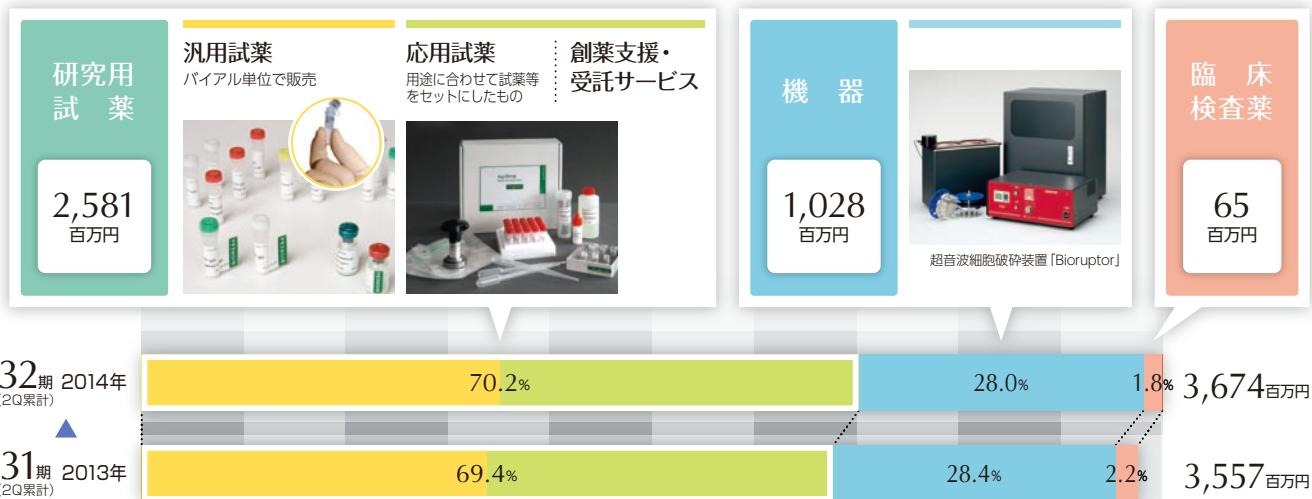
- 糞便中の腸内細菌のDNAから、腸内細菌の種類や量を解析する受託サービス
- 腸管バリア機能の指標であるムチンの測定キット

ムチン測定キット

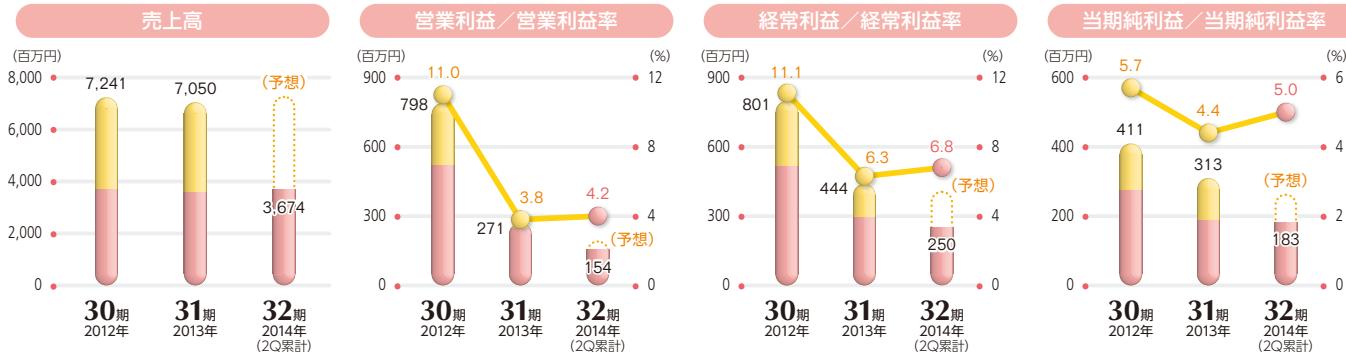


業績・財務のご報告（連結）

商品分類別連結売上高



● 通期 ● 2Q累計



営業の概況

我が国のライフサイエンス研究関連における試薬・機器市場の動きは、当上期も全体的に活発さを欠き、特に大学、公的研究機関では、近年の慎重な予算執行の傾向が続いています。このような状況下、当社グループは、各研究分野での販売活動に努めた結果、当上期の売上高は前年同期比

3.3%増となりました。一方、利益面では、販管費の節減に努めたものの、円安傾向を受けて、営業利益は同37.6%減、経常利益は同15.2%減となりました。保有する投資有価証券の売却益等が特別損益に計上され、四半期純利益は同1.4%減となりました。

▶ 連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

	前期末 2013年12月31日現在	当第2四半期末 2014年6月30日現在
流動資産	5,527	5,318
固定資産	2,750	2,508
資産合計	8,277	7,827
流動負債	818	848
固定負債	660	481
負債合計	1,479	1,330
株主資本	5,386	5,499
その他の包括利益累計額	924	513
少数株主持分	486	484
純資産合計	6,797	6,497
負債純資産合計	8,277	7,827

▶ 連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計 2013年1月1日~ 2013年6月30日	当第2四半期累計 2014年1月1日~ 2014年6月30日
売上高	3,557	3,674
売上総利益	1,412	1,272
営業利益	247	154
経常利益	295	250
四半期純利益	186	183

▶ 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計 2013年1月1日~ 2013年6月30日	当第2四半期累計 2014年1月1日~ 2014年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	266	543
投資活動によるキャッシュ・フロー	193	△ 92
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 77	△ 74
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,917	1,812

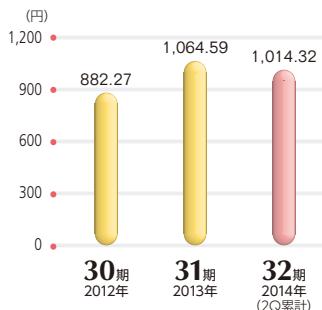
自己資本/自己資本比率



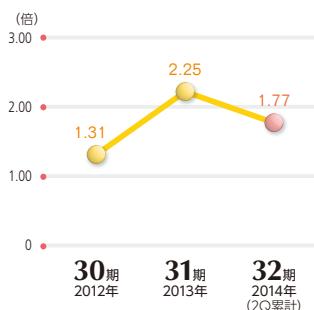
有利子負債残高/有利子負債比率



1株当たり純資産



PBR(株価純資産倍率)



(注) 株価は各期の期末日終値

(注) 2013年1月1日付にて、当社普通株式1株を100株に株式分割したことに伴い、1株当たり純資産については、当該株式分割が第30期の期首に行われたと仮定して遡求修正しております。

財務の状況

当第2四半期末の総資産は、前期末比450百万円減少しました。主な要因は、現金及び預金が増加した一方、売上債権、有価証券、その他有価証券(時価による評価を行ったこと等による)がそれぞれ減少したためです。純資産は300百万円減(その他有価証券評価差額金が減少したこと

等による)となりました。なお、自己資本比率は、同0.6ポイント向上し76.8%となりました。また、有利子負債は、前期末と同様に短期借入金20百万円となっており、自己資本に占める有利子負債の割合を示す有利子負債比率は、0.34%と極めて低い水準を確保しています。

トピックス

1
Topics

当社ホームページにおけるIR情報ページを充実

株主・投資家の皆様へ、より当社を理解していただくため、当社ホームページにおける、IR情報ページの充実に努めています。

当社に関する
情報をより
分かりやすく
充実させました



2
Topics

日本農芸化学会2014年度大会で学会発表

藤女子大学と広島大学、当社との共同研究の成果を、2014年3月27日(木)～30日(日)に開催された日本農芸化学会2014年度大会で発表しました。

発表日 : 2014年3月29日(土)

演題 : 「コリネのエタノール抽出物および抽出残渣物が高脂肪食摂取ラットの腸内環境に及ぼす影響」

演者 : 藤女子大学 岡崎 由佳子 准教授

当社の新製品について

世界で
はじめて

老化研究キット 新シリーズ

「コラーゲンAGEs抗糖化アッセイキット」の販売開始

老化の主要因のひとつである「AGEs」の生成を阻害する成分をスクリーニングする『コラーゲンAGEs抗糖化アッセイキット』シリーズを開発し、8月より販売しています。

アンチエイジング研究の対象として、AGEsの生成を防ぐ食品成分や化粧品成分の開発に、また各種加齢疾患の研究にお使いいただけます。

食品会社、化粧品会社や製薬会社をはじめ、臨床研究の場でも広くご利用いただける製品です。

▶ AGEs増加に伴う主な老化現象

肌 ▶ くすみ、しわ、たるみ

血管 ▶ 動脈硬化

骨 ▶ 骨粗鬆症

本製品技術に関する当社の論文が、
業界専門誌に特集記事として掲載されました!

特集

機能性食品素材の近況
「抗糖化評価技術の活用」

『ジャパンフードサイエンス』2014年7月号 (p.30-39)



コラーゲンAGEs
抗糖化アッセイキット

当社は商社として、世界中の約600社から最先端の研究用試薬を仕入れ、販売しています。しかしながら、基礎研究においては、なお新しい試薬の開発が求められています。

当社ではそうした研究者からの数多くの要望に応え、各種試薬を開発しています。

株主の皆様へ

株主の皆様のご質問にお答えします

Q ライフサイエンスの研究ステップにおいて、コスモ・バイオはどの段階を支援しているのですか。

A ライフサイエンスの技術が実用化されるまでにはとても長い年月がかかりますが、その第一歩は基礎研究から始まります。コスモ・バイオは、この「基礎研究」を支援しています。

➤ 研究ステップ

➤ 各研究ステップの研究機関（ユーザー層）



株主様アンケートのお願い

当社では、株主の皆様からいただいたご意見・ご要望を、今後の経営およびIR活動に活かしたいと考えております。つきましては、株主様アンケートを実施させていただきますので、お手数ですが、同封のハガキに所定の内容をご記入いただき、ご投函くださいますようお願い申し上げます。

ご回答いただきました集計結果の一部につきましては、当社ウェブに掲載するとともに、次の株主通信にてご報告させていただく予定です。

アンケート
メット 2014年12月31日

なお、お寄せいただきました情報は、厳重に管理し、正当な目的以外には利用いたしません。

利益還元について

当社では、当社の株式を長期的かつ安定的に保有していただくため、安定配当に努めております。

当第2四半期においては、1株当たり中間配当8円にて実施させていただきました。期末配当は12円（年間配当20円）を予想しております。

1株当たり当期純利益



1株当たり配当金



(注) 2013年1月1日付にて、当社普通株式1株を100株に株式分割したことに伴い、1株当たりの当期純利益については、当該株式分割が第30期の期首に行われたと仮定して遡求修正しております。

表紙について



地球には無数の命と無限の可能性があります。私たちコスモ・バイオは、この命の神秘を解き明かすライフサイエンスを支援することで、人と科学のステキな未来を創造していきます。今回の表紙は、豊かに実る稲の輪に多様につながる命のイメージを重ね、ライフサイエンスの大きな可能性を表現しています。

会社概要

(2014年6月30日現在)

商号 コスモ・バイオ株式会社
 設立 1983年8月25日
 所在地 〒135-0016
 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 資本金 918百万円
 事業内容 ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、
 臨床検査薬の仕入れ(一部自社製造)及び国内・海外販売
 従業員数 連結:125名 個別:92名

役員

(2014年6月30日現在)

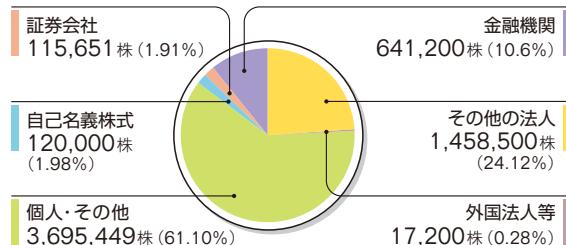
代表取締役社長 笠松 敏明
 専務取締役 櫻井 治久
 取締役 世良 伸也
 取締役 牧 与志幸
 取締役 島村 和也*
 常勤監査役 中野 重則*
 監査役 佐々木 治雄*
 監査役 深見 克俊* ※は社外役員

株式の状況

(2014年6月30日現在)

発行可能株式総数.....18,361,600株
 発行済株式の総数
 (自己株式120,000株を含む).....6,048,000株
 株主数.....6,296名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
東京中小企業投資育成株式会社	1,152,000	19.43
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 コスモ石油 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	576,000	9.72
コスモ・バイオ従業員持株会	204,900	3.46
田中 知	148,000	2.50
高木 勇次	148,000	2.50
原田 正憲	114,500	1.93
株式会社ヤクルト本社	100,400	1.69
新日本空調株式会社	89,600	1.51
鈴木 由美子	82,300	1.39
太田 由喜夫	76,100	1.28

(注) 議決権比率は、自己株式120,000株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 定時株主総会 毎年3月開催 同お問い合わせ先 同証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 基準日 12月31日 公告方法 Tel. 0120-232-711
 剰余金の 6月30日、12月31日 電子公告 <http://www.cosmobio.co.jp/>
 配当の基準日 (ただし、電子公告によることができない事故その他
 やむを得ない事由が生じた場合は、東京都において
 発行する日本経済新聞に掲載して行います。)
 単元株式数 100株 上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQ スタンダード
 証券コード 3386



株式に関するお問い合わせ先 → 住所変更等、株式に関する手続き・お問い合わせは、お取引の証券会社へお願いいたします。



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

〒135-0016
 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 Tel. 03-5632-9600 Fax. 03-5632-9613